

丸山眞男文庫の整理・公開 ―二〇一〇年四月以降の進展と展望

松沢 弘陽・川口 雄一

丸山眞男文庫資料の整理・公開については、二〇一〇年三月までの作業の概要を、『東京女子大学比較文化研究所附置丸山眞男記念比較思想研究センター報告』創刊号から第六号までの各号に掲載しました。今号では、その後をうけて、二〇一一年三月までに行われた作業の要点と展望を記します。

I 閉架資料の追加公開

丸山文庫は、二〇一〇年七月に、所蔵閉架資料の追加公開を行いました。新たに公開したのは、草稿類の一部（分類大項目第8部）約三〇〇件と、閉架図書約四〇〇〇冊です。このうち、丸山眞男による書き込み・折り込み等が多く残されている図書約二四〇〇冊は、PDFファイルで閲覧していただきます。閉架図書のみを検索される際には、東京女子大学図書館OPACの詳細検索画面 (<http://opac.library.twcu.ac.jp/opac/?mode=2>) 上の「配架場所」のプルダウンメニューから「丸山文庫（閉架）」を選択した上で検索してください。また、草稿類の検索には、専用のOPAC (<http://www.twculibrary.jp/maru-yamabunko/search.php>) を利用ください。

なお、丸山文庫では、丸山家の書斎や寝室などの書棚の配列を再現する形で図書を配架していますが、一部は閉架書庫に別置しているため、丸山家における元の配列を知ることができるように『丸山眞男文庫所蔵図書一覧（収蔵順リスト）』を作成しました。これは、図書館の閲覧カウンターでご覧いただけます。

II 取材・記事掲載と利用状況

①取材・記事掲載 閉架資料の一部と閉架図書の公開に際して、東京女子大学は、報道各社にプレスリリースを行いました。それを受けて、NHK、読売新聞、週刊読書人、日本経済新聞の記者が取材に訪れました。NHKニュース（七月二八日）、読売新聞（八月三日）、週刊読書人（九月三日）、日本経済新聞（九月二五日）が、新たに公開された丸山文庫の資料を紹介しました。

②利用状況 今年度、丸山文庫へは、のべ八人が閲覧に訪れました。また、NHKがETV特集「シリーズ・安保とその時代―第一回 日米安保を生んだ冷戦」（八月一日放送）を製作するために、平和問題談話会資料（吉野源三郎文書）を中心に丸山文庫の所蔵資料

の調査・撮影を行い、協力の会メンバーが資料説明から出演（？）まで協力しました。

Ⅲ 資料の整理

- ①草稿類 未公開の草稿類資料（分類大項目第9部から第15部まで）について、一点ごとに公開の可否を検討し、袋詰めしました。これにより、公開準備をほぼ終えました。さらに、新たにPDF化すべき資料を選び、PDFファイルを作成するとともに、各資料のタイトルをOPACで検索しやすいものに変更しました。
- ②図書 昨年度までに、図書の閲覧用PDFファイルの作成が完了しましたが、今年度はこれを受けて、各図書への書き込み等の重要度を示すグレード付けの最終チェックを行いました。そして、その結果とPDFファイルのページ数を一冊ごとに図書データベースに追加入力し、東京女子大学図書館にOPACへの登録を依頼しました。
- ③雑誌 書き込み等を一冊ずつ調査したのち、配架基準を決定し、東京女子大学図書館にOPACへの遡及入力を依頼しました。その後、書き込み等のあるページのPDFファイル作成を富士ゼロックスシステムサービス株式会社に発注しました。
- ④楽譜 丸山眞男が楽譜に残した書き込みについては、これまでほとんど調査されていませんでしたが、今年度、東京女子大学土合文夫教授に、全般にわたる調査をお願いし、楽譜一冊ごとに、書き込みの量や内容などを綿密に調べていただいています。

⑤抜刷 挟みこまれていた書簡を抜き取り、献辞の有無による仕分けをした上、これらの情報を記載したリストを作成しました。

⑥音声資料 内容をチェックし、公開できるか検討しました。また、公開に向けて、カセットテープからMP3への媒体変換をしました。

Ⅳ 今後の展望

- ①草稿類 未公開部分すべて（ただしプライベートなどに関わる資料を除く）の公開を目指します。また、タイトルの再検討と追加のPDF化作業を継続します。
- ②雑誌 二〇一一年度中に公開できる予定です。一九六〇年以前発行のもの、書き込み等のあるものは閉架書庫に配架し、一九六一年以降に発行された雑誌で書き込み等のないものは開架書庫に配架します。
- ③楽譜 ひきつづき土合教授に調査していただく予定です。
- ④抜刷 整理を終え、リストを完成させる予定です。その上で、保存・廃棄の選別を行います。
- ⑤音声資料 内容の調査を終え、閲覧に供するためにデータの加工をします。
- ⑥書簡 草稿類や抜刷などから新たに発見された来簡の整理を始めます。既に基礎的な整理を終えた書簡については、将来の公開に備えた検討を始めます。